授業科目名 Course Name	観光におけるデジタルトランスフォーメーション（観光DX） Digital Transformation in Tourism	教員名 Course Instructor(s)	吉田 秀政 （実務経験のある教員/学術博士）
		Eメールアドレス E-mail address	
授業形態 Class Format	講義	授業の方法 Mode of Instruction	単独
科目コード Course Code	DHTM305	配当年次・開講学期 Allocated Year & Semester	3年/4年・前期
単位数 No. of Credits	2	卒業要件 Required or Elective to Graduate	全コース：選択
コース Track	全コース	オフィスアワー Office Hours	授業終了後随時。但し、e-mailにてアポイントメントを取ること
実務経験 Practical Work Experience	あり	教員の免許状取得 Teaching License	
到達目標 Goals	1.観光を、複数の領域が接続する地域システムとして説明できる。 2.デジタル化、ICT活用、デジタルトランスフォーメーション（観光DX）の違いを理解し、観光分野における意義を説明できる。 3.宿泊、飲食、交通、観光施設、イベント、物品販売等の各主体が、地域観光の中でどのようにデジタル技術やデータと関わるかを説明できる。 4.リアルとバーチャルの接続が、観光行動や観光地域づくりに与える影響を理解できる。 5.国内外の観光DX事例をもとに、観光地域におけるデジタル活用の特徴と課題を整理できる。 6.観光データの基本的な種類と役割を理解し、観光地域におけるデータ活用の意義を説明できる。		
授業の概要 Course Overview	本授業では、観光地域づくりを主な視点として、観光DXの意義と構造を学ぶ。個別の情報技術や予約実務の理解にとどまらず、事業者・行政・DMOなど多様な主体の連携によって成り立つ観光地域全体を視野に入れ、デジタル活用のあり方、情報の流れ、顧客行動の連続性、リアルとバーチャルの接続を捉えることを重視する。デジタル化、ICT活用、DXの違いを確認したうえで、世界や日本の観光DX事例を通じて、観光地域づくりの中でデジタル技術やデータがどのように活用されているか、またどのような課題があるかを学ぶ。なお、本授業は、後期科目「デジタル時代の観光」において扱う観光データ分析と提案学習の基礎理解を形成する導入科目として位置づけられる。		
ディプロマ・ポリシーとの関係 Diploma Policy Objectives	DP2　グローバル・リベラル・アーツ、国際ビジネス・マネジメント、ホスピタリティ・観光マネジメント、英語教育の各コースの教育を通じて基礎および応用知識を身につけ、活用する能力を身につけている。 DP5　情報技術活用能力を身につけている。		
アクティブ・ラーニング Active Learning	1-(5) ジャーナル・ライティング 4-(1) 対話式講義 4-(3) 自由討論 4-(4) 事例研究 4-(9) 質問に対するグループワーク 4-(10) ペアで考えてシェア・グループで考えてシェア 5-(1) 学生が協力して行うプロジェクト		
履修条件・注意事	・観光、地域づくり、経営、情報社会のいずれかに関心を持つこと。		

項 Prerequisites / Remarks	・専門的な情報技術や統計学の事前知識は求めないが、授業内で扱う事例や資料を読み、観光分野におけるデジタル活用の意義や課題について、自分なりに考えながら受講すること。 ・授業ではPC、タブレット等のデジタルデバイスの活用を推奨する。		
授業計画 Course Schedule	No	内容	授業外学習
	1	**オリエンテーション** **～授業内容、進め方、到達目標、成績評価方法の説明～** 観光はなぜデジタルと切り離せなくなっているのかを身近な事例から考え、観光と地域、デジタルのつながりについて関心を深めるとともに、本授業で扱うテーマの全体像と学習の見通しを共有する。	事前:シラバスを読み、観光とデジタルの関わりについて身近な例を一つ考えておくこと。(90分) 事後:リフレクションペーパー(学んだこと・気づいたこと・疑問に思ったこと)提出(90分)
	2	**観光におけるデジタルトランスフォーメーションとは** **～デジタル化、ICT活用、DXの違い～** 本授業で扱う観光DXの基本的な考え方を確認し、観光地域づくりとの関係を概観する。用語の違いを整理するとともに、観光分野において単なる機械化や効率化にとどまらない変化とは何かを考える。	事前:配布資料を読み、デジタル化、ICT活用、DXの違いを整理すること。(90分) 事後:リフレクションペーパー提出(90分)
	3	**観光はなぜ領域横断的なのか** **～宿泊、飲食、交通、体験、物販、イベントの接続構造～** 観光を一つの産業としてではなく、多様な主体が連動する地域の仕組みとして捉え、その中で情報や人の動きがどのようにつながるかを学ぶ。	事前:観光を構成する主な主体を整理すること。(90分) 事後:リフレクションペーパー提出(90分)
	4	**リアルとバーチャルの接続①** **～旅行前・旅行中・旅行後の情報接点～** 旅行者が出発前に情報を集め、現地で行動し、旅行後に感想や評価を発信する流れを整理し、観光行動の連続性を理解する。	事前:旅行前・旅行中・旅行後の情報利用を振り返ること。(90分) 事後:リフレクションペーパー提出(90分)
	5	**リアルとバーチャルの接続②** **～観光行動と地域体験の変化～** 地図アプリ、予約サイト、口コミ、SNSなどが観光行動や地域での体験のあり方をどのように変えているかを事例を通して検討する。	事前:デジタルサービスが観光行動に与える影響を考えること。(90分) 事後:リフレクションペーパー提出(90分)
	6	**世界の観光DX事例** **～スマートツーリズム、デジタル案内、レビュー活用～** 海外の先行事例をもとに、観光案内、移動支援、情報提供の場面でデジタル技術がどのように活用されているかを学ぶ。あわせて、日本の観光との違いを考える視点を持つ。	事前:海外の観光DX事例を一つ調べ、その特徴を整理すること。(90分) 事後:リフレクションペーパー提出(90分)
	7	**日本の観光DXの特徴①** **～観光地経営、予約、回遊、情報発信～** 日本の観光地や観光事業者の事例をもとに、予約管理、情報発信、周遊促進などの取組を具体的に確認し、日本の観光DXがどのような特徴を持つのかを理解する。	事前:日本の観光DX事例を一つ調べ、その特徴を整理すること。(90分) 事後:リフレクションペーパー提出(90分)
	8	**日本の観光DXの特徴②** **～地域観光と事業者・行政・DMOの連携～** 自治体、DMO、宿泊施設、飲食店、交通事業者などの連携に着目し、日本の観光地域においてDXがどのような主体間協力の上に成り立つのかを学ぶ。	事前:観光分野における事業者・行政・DMOの連携事例を一つ調べること。(90分) 事後:リフレクションペーパー提出(90分)
	9	**観光地域づくりとデジタル活用** **～個社最適と地域最適～** 個々の事業者にとって便利な仕組みと、地域全体にと	事前:個社最適と地域最適の違いを考えること。(90分) 事後:リフレクションペーパー

		って望ましい仕組みが必ずしも一致しないことを理解し、地域視点でのデジタル活用の意義を学ぶ。	提出(90分)
	10	**観光データの種類と役割** **～来訪者数、属性、行動、口コミ、予約、購買等～** 観光分野で扱われる基本的なデータの種類を整理し、それぞれが観光の実態把握においてどのような役割を持つのかを確認する。	事前:観光データにはどのような種類があるかを整理し、何を把握するためのものかを考えること。(90分) 事後:リフレクションペーパー提出(90分)
	11	**観光データ活用に基づくマネジメントの基本** **～観光地域における情報把握、課題整理、意思決定との関係～** データを集めること自体が目的ではなく、現状を把握し、地域の課題を整理し、判断につなげることが重要である点を学ぶ。	事前:データを用いた判断が必要だと思われる観光地域や観光事業者の場面を一つ考え、どのような情報があれば役立つかを整理すること。(90分) 事後:リフレクションペーパー提出(90分)
	12	**日本における観光DXの諸課題** **～地域間格差、人材不足、連携の難しさと対応～** 日本の観光地域におけるデジタル活用をめぐり、課題を整理し、観光地域づくりの中で何が求められるのかを考える。	事前:日本の観光デジタル活用の課題を一つ調べること。(90分) 事後:リフレクションペーパー提出(90分)
	13	**生成AIと観光分野** **～要約、分類、論点整理などの基本的活用～** 観光分野における生成AIの基本的な活用例を確認し、観光データや観光情報の要約、分類、論点整理にどのように役立つのかを考える。あわせて、生成AIの活用に際して注意すべき点や限界についても整理する。	事前:観光情報や観光データを扱う場面を一つ想定し、生成AIがどのように役立ちうるか、また注意すべき点は何かを整理すること。(90分) 事後:リフレクションペーパー提出(90分)
	14	**事例分析・グループ討議** **～観光地域におけるデジタル活用の特徴と課題を整理する～** これまで学んだ内容をもとに、事例を分析し、観光地域におけるデジタル活用の利点、限界、今後の課題についてグループで意見交換を行いミニ発表資料の作成を進める。	事前:これまでの学習内容を振り返り、観光地域におけるデジタル活用の特徴と課題という観点から論点を整理すること。(90分) 事後:ミニ発表の準備(90分)
	15	**最終整理・ミニ発表** **～観光地域におけるデジタル活用の特徴と課題を捉え直す～** グループでのミニ発表と振り返りを通して、授業全体の学びを整理し、観光地域におけるデジタル活用の特徴と課題をあらためて確認する。あわせて、後期科目「デジタル時代の観光」における観光データ分析と提案学習につながる視点を整理する。	事前:ミニ発表に向けて、自分たちの整理した事例が、観光地域におけるデジタル活用の特徴と課題をどのように示しているかを確認すること。(90分) 事後:授業全体を振り返り、観光地域におけるデジタル活用の特徴と課題、ならびに今後さらに考えたい点を整理すること。(90分)
学生に対する評価 Assessment Criteria	成績評価の方法・基準 / Grading Method and Criteria: 本授業では、リフレクションペーパー40%、グループ発表30%、授業への参加・意欲30%により評価する。 フィードバック / Feedback: リフレクションペーパーへのフィードバックとして、思考過程が特に秀逸な記述を数点取り上げ、評価の理由とその理論的背景を丁寧に解説する。		
時間外の学習について	学生は、1時間の授業に対して少なくとも1時間の復習と1時間の予習をすることが求められる。		

Preparation and Revision outside Class	
テキスト Textbooks	授業で使用する資料は、デジタルデバイスを用いて、前日までにPDFで配布する。
参考書・参考資料等 References	授業中に適宜紹介する。
備考 Remarks	【実務経験を活かした授業】 担当教員は、地方自治体やDMOでの地域DXや観光DXの促進や来訪者アスキングデータ収集・分析・共有エコシステム構築の実務経験およびデータ分析指導経験を活かし、授業を行う。